

佐智だより

Vol.7
Apr.2019



まわりの人たちの理解

「あー」「うー」「おー」などしか言えない方がいます。一生懸命に指さしながら「おーおー」と訴えるので、「公園ですか?」「店でですか?」「自宅ですか?」などの選択肢を示しますがなかなか当たりません。特にお店の名前などの固有名詞の場合には最後まで分からずにお互いに辛い思いをします。その時は「ごめんね。どうしてもわからなくて、...。」と謝りますが、偶然に当たった時は嬉しくて二人とも笑顔がはじけ飛びます。

失語症は頭(心)ではイメージができているのにそれを音声として言葉として表出することが難しい病気です。麻痺性構音障害のように音を出す器官(喉の部分や口の中)がうまく働かない場合には筆談やメールなども可能ですが、失語症の方の多くは書字も難しくなります。つまり、理解はしているのに、言語化できないので相手に伝えられないのです。わかっているのに言葉にならない、相手伝えられないというのはどれほど歯がゆいことか、健康な私達には想像の届かないところです。

一方で失語症という障害は「もうここまで」ということはなくゆっくりではあっても生涯にわたって回復していくと言われていきます。三十九歳で失語症となった大分市の山崎明夫さんはその著書『にほんごがこんなふうに見えるのよ!』の中で、「維持期と言っても、ミリ単位、ミクロ単位ではまじになってるって実感があるわけだ」と書いています。大切なのは少しずつでも回復していることを信じて焦らずに諦めずにリハビリを継続していくことです。そのためにはまわりの人たちの理解と協力も当人の大きな力となることでしょう。何を言いたいのかわからない時は選択肢を示して選んでもらったり、「はい」「いいえ」で答えられるような問いかけにするなど、関わる側の工夫がコミュニケーションの幅を広げます。そして脳の中の引き出しから懸命に言葉を探して発しようとしている方に対して、私たちは優しく寄り添い落ち着いて、その方の口から出てくる言葉をゆっくり「待つ」ことも大切だということです。ご利用されている失語症の方やそのご家族から教えていただいています。(田原公彦)

失語症と漫画本

数名のご利用者のリクエストに応じて、コミック漫画を揃えました。小説と違って漫画は文字と絵を同時に追いながら読んで(見て)いきます。失語症では文章が読めない場合やひらがなだけわからない場合などその症状は様々です。そのような時に漫画は絵というヒントを見ながらそこに書かれている文字を理解しようとするので、単なる文章よりも取り付きやすいのかもしれない。今後にも更に漫画が増えそうな勢いです。



失語症の症状

◇話すことの障害(全く話すことができない場合から、複雑な会話は難しいけど日常生活は問題がない状態まで様々です)

①喚語(かんご) 困難

何かを伝えたいのに、それが言葉になって出てこない状態で、失語症のもっとも目立つ症状です。言葉が出てこないために回りくどい言い方をする「迂言(うげん)」などの種類があります。

②錯語(さくご)

意図とは異なる言葉を言ってしまう状態です。「犬」と言いたいのに「猫」と言ってしまうようにまるごと言い間違「語性錯語」や、「みかん」と言いたいのに「み」とん」と言うなど言葉の一部分のみ言い間違「音韻性錯語」などの種類があります。

③復唱障害

相手が言った言葉を復唱することが難しくなる状態です。

④新造語

目標語が推測できないほどに音が変化してしまっている語のことを言います。「みかん」と言おうとして「いわしんぐ」と言ってしまうなどの例があります。

⑤ジャーゴン

ジャーゴンとはわけの分からない発話、という意味です。流暢に話しているものの、錯語や新造語が多すぎて意味が全く分からない発話になる状態です。

◇聞くことの障害

他人が話す言葉の音は聞こえていても、言葉の意味が理解できない状態です。全く理解できない場合から、日常生活は問題なく複雑な会話や長文になると難しい場合まで症状の程度が異なります。

◇読むことの障害

文字は見えているのに意味が理解できなかったり音読することができない、読み間違いである「錯読(さくどく)」などが起こる状態です。錯読には「月」と「目」のように形が似たほかの文字と読み間違える視覚性錯読や、「消しゴム」を「けしもむ」のように単語の音を読み間違「音韻性錯語」などの種類があります。

◇書くことの障害

文字が思い出せない、書き誤る「錯書(さくしよ)」などが起こる状態です。失語症の種類により、ひらがなと漢字で症状の程度が異なります。ひらがなは音を表す文字であるため、ひらがなを使うにはひらがなの音を頭の中で認識している必要がありますが、漢字は文字自体が意味を表すため、

食欲の春!

外出・社会参加訓練の一環としてスシローに昼食を食べに行きました。車椅子のKさん、以前より大食いということは聞いていましたが、なんとあつという間に十八枚をペロリ!、まだ足りないと思ったらラーメン一杯をたいたら、まだいけそうでしたが、さすがにここで無理やり終了しました。



音を認識していなくても書ける場合があります。

◇計算能力の低下

数字は数を表す語である「数詞」であり、数字を置く位置で数を表すことや、計算のルールなどが存在するため、失語症のある人は計算が難しくなることがあります。

1の時期の食養生

四月は段々暖かくなりますが、寒さがまだ残っていて、雨が降る事も多い季節です。また、新しいスタートを切る始まりの月でもあり生活の変化で心身ともに不安定になりやすい時期です。新陳代謝を活発にさせて生命力の強い食材を摂る事で体力をつけましょう。

【食養生のポイント】

春の養生の基本は五臓の『肝』の機能を高める事です。『肝』の主な機能は新陳代謝を促す事や解毒などがあります。冬の間に代謝が落ちて溜まった余分な物を取り除くため『肝』の養生に努めましょう。

【おすすめの食材】

＊セロリ・『肝』の働きを助け血圧を抑えたり体質改善に効果がある為むくみがある時にも勧められます。香りは精神安定作用が有ります。

＊鶏肉・『肝』『胃』の働きを助け胃腸の蠕動を良くし消化酵素の分泌を促して消化不良を改善させます。ビタミンAコラーゲンが含まれているため風邪や花粉症、皮膚を強くします。

これからの暑くなる季節に負けない身体作りを心がけましょう。

(看護師 牧野)

富永英雄さんが語る

歌人 石川啄木

サラリーマン川柳や、テレビで芸能人が詠んだ俳句を査定する番組が登場し、俳句は以前より身近な存在になっている。富永英雄さんは、高校時代、山之口駅から高城までの約4km、遠く長い道のりを、石川啄木の短歌を朗々と歌いながら行き通ったそう。

「長い人生の中で石川啄木の短歌は、辛いときに慰め、励ましの言葉になってきた。苦しいことも克服できた。」と富永さんは言う。

『このころよく われにはたらく仕事あれ それをし遂げて死なむとおもう』

学校の教員や専門学校の講師、障害者施設の施設長を経て、今から趣味の写真や講演活動をしうとしていた七十二歳の時、老人保健施設の施設長の誘いがあつた。この歌を思いだし、新たな分野に挑戦しようと考えたそう。

言語聴覚士が関わる専門施設

利用者様層

人の話くらぶ佐智は、言葉に関する訓練の専門施設です。言葉が出ない、出にくい、聞くことの障害や飲み込みに問題のある方々に利用頂いております。その為、ご利用者の年齢層が広く、俗に言う「高齢者施設」との表現は当てはまっております。上は90代の方がおられますが、40代、50代の方もおられます。年齢幅が広いので、ご利用者の目的、目

標もそれぞれに違ってきます。40代の内、女性O様は、通所中に午前中に仕事を開始されました。さらに、長く働く条件に当てはまるように、言葉の基礎となる訓練と、歩行の安定を重点的に実施されています。具体的には、肺活量を増やす、腹式呼吸が出来る様に呼吸吸気の訓練、様々な声だし訓練、歩行の安定にも繋がる腹筋、体幹トレーニング、計算機を打ちながらの歩行訓練、他にも基礎体力と歩行時のバランスを保つ為



『友がみな 我より偉く見える日よ 花を買い来て 妻としたしむ』

石川啄木の歌を思い出して、妻と仲良くやっているのよ。と微笑みながら語る。石川啄木は苦勞して生きたからこそ、学ぶものがあり、そして

その言葉には、現実味がある。だから富永さんは啄木の歌が好きだ。四月十三日は石川啄木の命日。啄木が短い生涯の中で紡いだ言葉達を読み直してみたい。(奥村)

※富永英雄様は佐智の利用者様です。右手の麻痺はありますが、シャッターを切るまで回復しています。登山を目標に歩行訓練を毎日一キロ以上頑張っています。人生の経験談を語り、指導をして頂いています。

の訓練にいつも汗を流しておられます。50代の方の内、男性のI様、女性のK様は、いずれも脳の血管性の疾患による麻痺、言語障害を生じておられますが、ご家族の為を考えて仕事復帰の為にハードな訓練を自らも「やる」と進んで行われています。私達職員も、その思いに強い責任感を感じております。通常の言語訓練や身体リハビリに加え、実用性を優先して頂くためにパソコン訓練にも力を入れております。成果として現れるのに時間は要しますが、50音も(後遺症の影響で)打て

TOPICS

試食会



一月十八日は十三名のご家族を迎えて定例の家族会を開催しました。今回はご利用者様がいつも召し上がっている昼食の試食をして頂きました。

当施設の昼食は法人の管理栄養士が考えたレシピに基づき、経験豊富な調理師が時間をかけて作っています。試食を終えたご家族からは「味付けが参考になった」「とても美味しかった」等の感想を頂きました。(鶴田)



願いを込めた絵馬

今年の目標や願いを絵馬に書いてもらいました。家族の幸せを願う方、出来なかった事を今年はするぞ!と意気込みを書かれる方、リハビリを頑張る目標を書かれる方、一人一人様々な思いを込めて書いていました。少しでも皆さんの願いが叶いますように、出来る限り私達スタッフも頑張っていきます。

年末には書いてもらった絵馬をお返しして願いが叶ったか、自分で評価をしていただこうと思っています。(草留)



☆ふうせんかずら☆

近所の方から種を頂き、利用者さんと一緒に植える作業を行い協力して水やりをし、2週間程で発芽しました。植物を育てる体験を通して、コミュニケーションの活性化や、土をいじる、種をまく、雑草を抜くなど自然と手足を動かすため運動促進効果が期待できます。今後は植え替えをし、管理を利用者さんと分担して行っていく予定です。(柳田)



登録者の内訳

男性：16名 女性：18名

平均年齢 73.9歳

年代構成：40代：3名、50代：3名、60代：6名、70代：11名、80代以上：11名

利用空き情報

現在の利用者数 (定員18人)

月	火	水	木	金	土
17人	14人	13人	14人	16人	9人

4月より定員増となりました

佐智だより NO.7 (平成31年4月25日)

医療法人社団三友会 人の話くらぶ佐智

Tel:0985-89-2772 Fax:0985-89-2773

(所在地)

〒880-0024 宮崎市祇園2丁目17番地1